

# 第14回 豊川流域圏自然再生検討会

## 第13回 豊川流域圏自然再生検討会 主な意見と対応

重要種に係わる情報等については、原則非公開とさせていただきます

令和3年9月29日

国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所

## 自然再生事業モニタリング調査結果に対する主な意見と対応（1）

項目	主な意見	対応方針
ヨシ原再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本川と放水路の水質環境や物理的条件の違いと生物の生息状況を結びつけるような検討を行うと良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本川と放水路における水質（塩分）とヨシ原の生育状況との関係を整理した。 （資料-2）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鳥類の種類数の経年変化について、周辺地域の類似した環境と比較して妥当性を確認できると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 愛知県の既存データを用いて近隣河川の矢作川と比較した。 （資料-2）</li> </ul>
干潟再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後はアサリだけでなく、粒径の選好性が異なるハマグリにも着目して、底質との関係をモニタリングすると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、ハマグリと底質のモニタリング調査を行った。 （資料-3）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近年の三河湾の渡り鳥の生息数の減少について、餌資源となる底生動物の減少によるものではないかという意見がある。三河湾全体の鳥類相との関係性も踏まえて、長期的な事業効果を評価できると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境省の既存データを用いて三河湾における渡り鳥の飛来数を整理した （資料-3）</li> </ul>

## 自然再生事業モニタリング調査結果に対する主な意見と対応 (2)

項目	主な意見	対応方針
干潟再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 止水域ラインは条件によって変わる。放水路側に堆積傾向もみられるため、流況のシミュレーションをすると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存のデータを用いた流況解析を実施し、止水域ラインの変化や干潟再生のための地形条件を把握した。(資料-3)</li> <li>・ 土砂投入後の状況をモニタリングしながら施工を進めていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 止水域の環境は、本川と放水路の流量や干潟地形によって決まる。干潟再生にとって最適な地形を検討できると良い。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掘削予定箇所については、掘削後の表層粒度とそれに伴う生物相の変化をモニタリングする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和2年度は掘削予定箇所の施工は行っていない。掘削予定箇所の粒度組成や生物相のモニタリング調査は引き続き行っている。(参考資料)</li> </ul>

## 自然再生事業モニタリング調査結果に対する主な意見と対応（3）

項目	主な意見	対応方針
アサリ着底稚貝調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着底稚貝が3～4月に海域部に移動するという仮説に対して、流況との関係をどのように解釈するか。水温や塩分が移動に関係しているということを検証するのは難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移動開始前の1月から移動後の4月まで、流況・水温・塩分を連続観測し、移動要因について考察した。（資料-4）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3～4月の流況のデータを見ると、北東-南南西の往復流となっているが、ADCPによる面的な流向・流速ベクトル図は東西方向の流れであり、両者に相違があるため、データ取得時の状況を確認する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4季目調査において、1～4月の流況の連続観測を行い、冬季から春季における流況の変化を確認した。（資料-4）</li> <li>・ 連続観測地点周辺において、スポット的に流況鉛直観測を行い、連続観測地点と周辺の流況の状況を確認した。（資料-4）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大潮の時期に干出する場所について、干潟内の泥温と、着底稚貝の移動のタイミングの関係性に着目した解析を検討してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較的地盤高の高い調査地点1箇所において、泥温の連続観測を行った。（資料-4）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の検討において、栄養塩の動態とナノプランクトン発生状況のメカニズムの解明は重要であると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既往知見やデータを整理し、本年度の調査結果を踏まえ、今後必要な調査を検討する。（資料-4）</li> </ul>